

京都市地域・多文化交流 ネットワークサロン通信

発行日 2012年6月1日 編集・発行 京都市地域・多文化交流ネットワークサロン

第4号

地域・多文化交流ネットワーク促進事業のこれから

昨年7月にネットワークサロンがオープンし、様々な取り組みをおこなってきました。ボランティア講座は、講義形式と体験形式のものをおこない毎回多数の参加者がありました。世界の料理教室はこれまでに7回開催し、毎回定員を超える申し込みがあり大変好評でした。単なる料理教室で終わることなく、各国の生



活や文化の違いなどを紹介していただく取り組みもしています。特別講演会は、第1回として、川崎市ふれあい館の金迅野さんに「多文化共生社会の現実と課題」と題して講演をいただき、第2回は、大阪人権博物館の朝治武さんに「韓国歴史ドラマの世界」と題して講演をいただきました。各講演とも、現実の課題と関連させながらのもので、大変有意義なものでした。各講演とも今年度中に講演録を作成する予定です。子どもたちも参加できる楽しい企画としては、地域・多文化交流フェスティバルを2011年10月1日と2012年4月7日に開催しました。4月7日のフェスティバルは「東九条春まつり」として、約1000の方が来場され、大変寒い日でしたが多くの方に楽しんでいただけた1日でした。

「東九条春まつり」はネットワークサロンに登録をいただいている団体に積極的に参加していただき、ステージや各店舗を運営していただきました。登録団体も現在では34団体となり、それぞれの団体がネットワークサロンを活用しながら、積極的な活動をおこなっています。ネットワークサロンの活動を充実させながら、今年度の事業に取り組んでいきます。今後も、よろしくお願ひします。

(所長 前川 修)

報告①

東九条春まつりを開催しました！
～多様な団体との協同が実現

1月の登録団体による実行委員会の立上げから、あっという間に4月7日の春まつり当日を迎えました。短い準備期間ではあったものの、みなさんのアイデアとご協力のおかげで、盛りだくさんの内容になりました。登録団体や地域の商店が中心となって出した出



店は、なんと26店舗。寒さで凍えながらの販売でしたが、多くの参加者に喜んでいただきました。東九条マダン、希望の家カトリック保育園、オモニハッキョ・ケナリ、NPO法人丹波マンガン記念館、エルファ、日本自立生活センター（J C I L）の6団体による合同文化祭は、在日朝鮮人の歴史から現在の東九条における多文化共生を目指す取り組み、当事者や個々の活動に携わる関係者の思いが伝わる充実した内容でした。車いす体験コーナー、起震車、東九条に関わりを持つ教職員の方々による手作りコーナー、東九条在住のペク・ヨンイさんの世界の料理教室・子ども篇など、子どもたちが楽しく参加できるものもありました。東九条で育った子どもたちのグループ「サムルのたまご」のサムルノリ演奏で始まった多文化交流ステージ。京都パグアサ・フィリピン・コミュニティのバンブーダンスには、保育園の子どもたちも参加してくれました。アフリカンドラムサークルの「ドゥニヤカン」の演奏では、大人も子どももリズムに合わせて飛び跳ねて大盛り上がりでした。寒さをしのいでホールに来られた参加者も、エル・システム無償の音楽教室のク



ラシックギターの優しい音色や、南区のオモニの会「韓舞会」や、京都国際学園の子どもたちの華やかな韓国舞踊と衣装に癒されている様子でした。最後は、参加者みんながホールに集まり、東九条マダンのプンムルに合わせて踊り、手を叩き、来年へ希望をつなぐフィナーレとなりました。（宇山）

(座談会) 地域福祉の現場から(1) ～喫茶・会食事業を通じた「寄り場」の意義～

東九条地域の福祉の現場から、地域の高齢者の状況や事業の連携などをご紹介していきたいと思
います。今回は、喫茶や会食などを通じて気軽に高齢者が立ち寄れる場を提供しているエルファ、
まめもやし、希望の家の三団体に集まってもらいました。今号では前篇をお届けします。

■■エルファ・ちおんみよんえ鄭明愛さん：エルファでは、作業所の一環として、喫茶を始めました。近所の
人が来てくれたらと思って。地域の高齢者が来ています。交流のためのサロンというより、
喫茶店なので、飲み物だけでも頼んでくれる人はいます。仲のよい人たちが喋る場所になっ
ていますね。お年寄りの人間模様がよく見えます。土曜日もやっているの、「故郷の家」
の利用者や家族が来ることもあります。人気メニューは、ピンパですね。食数としては、
15食ぐらいかな。人気メニューのときは20食を超えます。比較的自由に運営しています。
作業所の人がよく喫茶を利用して来ていて、時間帯は8時半～16時までやっています。
作業所の利用者で一人暮らしの方は、朝食などをよく利用してくれていますね。デイサー
ビスもしているの、洛西、洛北、南京都など各デイサービスから来る「カフェレク」も
できて、よい交流になっていますよ。

■■まめもやし・村木美都子さん：まめもやしでは、東松ノ木市営住宅の地域集会所で会食と
いこいの場を持っています。それから、常時、管理事務所のスペースを活用して、喫茶も
しています。団地住民が対象で、会食の対象は当初の在日一世だけでなく広がってきてい
ます。デイサービスとは違って気軽に寄れるかな。認知症の方や元気な人も一緒。元気な
人がその人の症状を分かってもらえる場にもなっています。会食は300円という手軽さが
あり、自治会との連携のもと、やっています。

■■希望の家・村田牧子さん：希望の家では「にこに
こや」という名前で、毎日（月～金）、喫茶スペ
ースをやっています。利用者は30人ぐらいですかね。
食パンは50円、コーヒーは100円です。朝食を食
べて、昼前に帰っちゃう人もいますし、同じメン



バーが多いこともあります。朝の9時半から15時まで。施設が新しくなったことで、来てくれる人が増えました。特養の人がお茶を飲みに来たりしてくれます。近くの形成外科のデイサービスの人が来ることもあります。よい交流の場になっていると思います。常連さんが初めて来た人に「また来てや」と言ってくれたりもします。エルファのデイを利用している方で、ご家族と一緒に来てくれている人もいますよ。近所の若い人もたまに来ていけるかな。デイサービスと違って、しんどいときは帰ることができるし、気の合わない人がいるときも帰れますしね（笑）。デイには行きたくないけどという人も来られます。やっぱり居場所になっていますね。普段はただ喋っておられるだけですが、月に1回、誕生日会をやっていて、ケーキづくりの上手なボランティアさんが来てくれます。こちら側が提供することが多く、来ている人が自主的に何かをするというところまではないですかね。

////////////////////////////////////

■喫茶・サロンスペースは高齢者にとって気軽に寄れる場所

村田：希望の家では、ボランティアが話し相手として入ってくれています。話題をふってくれるんです。

村木：喋る人同士はよいけど、そうでない人は孤立するので横についてあげたりしますね。

村田：男の人は5、6人ですが、友達同士ということではなくって。ボランティアは教会関係とその友だちや学生など、毎日入ってくれているのが大きいです。

村木：ランチの値段は300円が限界です。他の人におごってあげられる金額としてはこれくらいかな。

村田：病院やデイで新たな住民さんを誘ってくれているのが大きいです。

村木：地域のデイや特養とか（施設の人）来てくれるのはよいですね。

鄭：エルファでは、デイサービスの一つのプログラムとして、喫茶に来てお茶を楽しんだりもします。ときには、友だちに再会されたりもします。作業所の利用者が一番多いです。ランチを作る担当者はいます。2006年から作業所としてスタートして、喫茶スペースには「成望館」の商品を置いたり、スタッフが手話ができることを聞きつけて聴覚障害の人が来てくれたりもします。喫茶スペースはライブコンサートなどにも開放していて、作業所の利用者さんで音楽活動をしている人が、朝鮮語の曲を作って、「エルファタリヨン」などもしていますよ。

【前篇終わり・次号につづく】

(シリーズ) 登録団体との連携・紹介(3) 京都フィリピン・パグアサ・コミュニティ

～木之本マリルさん(事務局)インタビュー～

—登録団体の「京都フィリピン・パグアサ・コミュニティ」で活動するマリルさん。東九条とはどんなところですか？

マリル: 日本に来てから20年ぐらい経ちます。嵯峨野や太秦にも住んだことがありますが、東九条には15年近く住んでいます。希望の家にも、子どもが児童館にお世話になったこともありますし、バザーの際にはいつも来ていますよ。サロンが出来たことで、フィリピンの人たちが気軽に集まれる場所が身近にできて、仲間がもっと増えると思います。コリアンの人も多いからか、東九条はとてもほっとする場所で、私には合っていますね。子どものことを一緒に心配してくれる近所の方や、日常的に挨拶を交わすことができます。

—フィリピンコミュニティとの関わりはいつからですか？

マリル: 日本に来て2、3年ぐらい経ってからのことで、それまでの寂しさや孤独感などがなくなり、心強さがありますね。生活するうえで困難なことが起こるとシスターが相談に乗ってくれますし、APT (YWCA) などを紹介してくれたことが大きいです。いつもはタガログ語と英語でのコミュニケーションが多く、FacebookやiPhoneは必需品です。ネットワークサロンの登録団体である「京都フィリピン・パグアサ・コミュニティ」(「PAG-ASA (パグアサ)」とはタガログ語で「希望」)では事務局になり活動しています。日曜日の英語ミサ、水曜日のお祈りなどがコミュニティの活動の基本で、その際いろいろとコミュニケーションを図っています。

—今後、サロンに期待することは？

マリル: 他の外国の方々とのコミュニケーションや交流の機会がもっとあるとうれしいです。東九条のことももっと仲間に紹介したい。日本語ができない仲間も多いので、タガログ語でのコミュニケーションの輪にもどんどん入ってきてほしいですね!

(シリーズ) 登録団体との連携・紹介(4) エル・システム無償の音楽教室

エル・システムは南米ベネズエラで始まった楽器貸与の無償の音楽教室です。エル・システムに来ると自分にあった大きさの楽器を渡され、週1回のレッスンも無料で受けられます。「奏でよ、そして闘え」が合言葉で、音楽の力で地域の問題を乗り越えていきます。日本ではクラシック・ギターで始まり、東九条と美山に教室があります。今年に入ってから岩手県釜石市の仮設住宅で楽器貸与の無償の音楽をやりはじめました。東九条では8人の小中学生と一人のスタッフが学んでいます。練習を重ねて、うまくなると地域の施設やイベントなどでも積極的に演奏していきます。地域を励まされ、地域を励まし、子どもたちはうまくなってゆきます。

(エル・システム)

きむくわんみん

金光敏さん(希望の家カトリック保育園)インタビュー

多文化共生保育10周年を迎えて

—地域における多文化共生とはどのようなものであり得るのでしょうか。今号では、多文化共生保育を始めて10年目を迎えた希望の家カトリック保育園の金光敏さんにお話を聞きました。

金：6月9日(土)10時から、子育て講演会(希望の家にて)を行う予定です。保育園創立45周年、多文化共生保育に取り組んで10年の節目として、園のみんなが一緒になって取り組む手作りの「多文化共生保育、子育て講演会」です。この10年間、いろいろな国の方をお呼びし、子どもたちが異なる文化に触れる機会を持ってきました。それ以前から園としては、東九条地域で「共に生きる」を掲げて、コリアと日本、それぞれの文化を認め合うという保育を続けていました。その延長線上に今の多文化共生保育があると思っています。この間、園内に「多文化共生保育委員会」を作り、『多文化共生保育通信』を創刊することができました。私が報告させて頂いたボランティア講座にも若い職員が多数参加してくれました。今回の講演会は、パワーポイントによる多文化共生保育の説明や展示、楽しい体験コーナーもありますので、ぜひご参加ください。~~~~~

—この2年間、京都市の多文化共生施策懇話会の委員をされておりましたね。感想を聞かせてください。

金：YWCA・APTや多文化共生センター・きょうとなどが参加されていて、とても勉強になりました。また、中国残留孤児の方や在日華僑の委員の方のお話をお聴きし、コリアン以外の歴史や経験を知り、貴重な体験となりました。ただ、国際化推進室が運営する懇話会が行政の中でどれ程機能しているのか、もどかしい一面も。年度ごとに市長に『提言』を出すのですが、私が担当した「多文化共生保育」が施策にどの様に反映されたか、気になりました。最後の会議で、地域における多文化共生保育の実践が各地で少しずつ行われていることを報告してもらい、園として実践報告をさせてもらった成果を感じられました。これから、園内にフィードバックしていきたいです。

—ネットワークサロンに期待することは何でしょうか？~~~~~

金：7月から制度が変わる入管法についての講座をされたり、エル・システムなど多様な団体が活動



されていて、東九条にサロンができて良かったと心から思います。懇話会では京都市国際交流協会との連携についても質問しましたが、蹴上にある会館は地域の外国人にとっては遠いです。地域に根付いた多文化共生の実践が必要で、生活に必要な情報を多言語で手軽に提供できるかたちをぜひ模索して欲しいです。そして、今後も保育園との連携を深めていけたらいいなと願っています。

聞き取り調査部会がスタート～東九条の歴史を残すために

南 珣 賢 (京都コリアン生活センター・エルファ)

東九条にまつわる歴史やエピソードを残そうと、エルファ、オモニハッキョ・ケナリ、まめもやし、希望の家などで構成する「東九条聞き取り調査部会」が動き出しました。周知のとおり東九条は多くの在日コリアン1世、2世が居住しています。植民地からの解放、大国による占領、朝鮮半島の分断…と、情勢の直接的な影響を受けながらも自らの生活を守り抜いてきた彼／彼女らの生活史を残すことは緊要な課題です。東九条で長年生活支援活動を行ってきた団体や個人の信頼関係と、築き上げてきた地域のネットワーク力で東九条ならではの聞き取り調査が行われると期待しています。私たちが東九条の記録を残すことは過去を学び真の共生の未来を考えること。東九条聞き取り調査活動が、目指す未来に向かって多くの人々と協働する場になり、1歩ずつでも進化する「地域創り」が広がっていけばいいと思います。

報告②

第7回世界の料理教室・子ども篇

～ 一口チヂミを作りました！～

今回の世界の料理教室は、東九条春まつりの一環として、子どもたちを対象に行いました。講師は地元のペク・ヨンイさんを迎え、一口チヂミを教えてくださいました。包丁を持って切るところから始めたのですが、時間がなく、普段、家で作ることもあるレシピを、材料を入



れる順番や混ぜ方、スプーン一杯分ずつ焼くなど、低学年でもわかるように説明してもらいました。子どもたちは一人5枚ずつ焼き、チヂミも上手にひっくり返すことができました。焼き上がりを真剣に見ては、自身たっぷりの顔や不安げな顔が印象的でした。おやつに食べる子、持って帰って家の人に見せたい子など、一人ひとりがとても喜んでくれました。一班に大人二人が入り、やけどには気を付けるように気を配りながら子どもたちを見守れたことも、今後の料理教室に向けて良い経験となったと思います。 (武市)

ネットワークサロンへのメッセージ <拡張型多文化>への期待

小川 伸彦(奈良女子大学准教授)

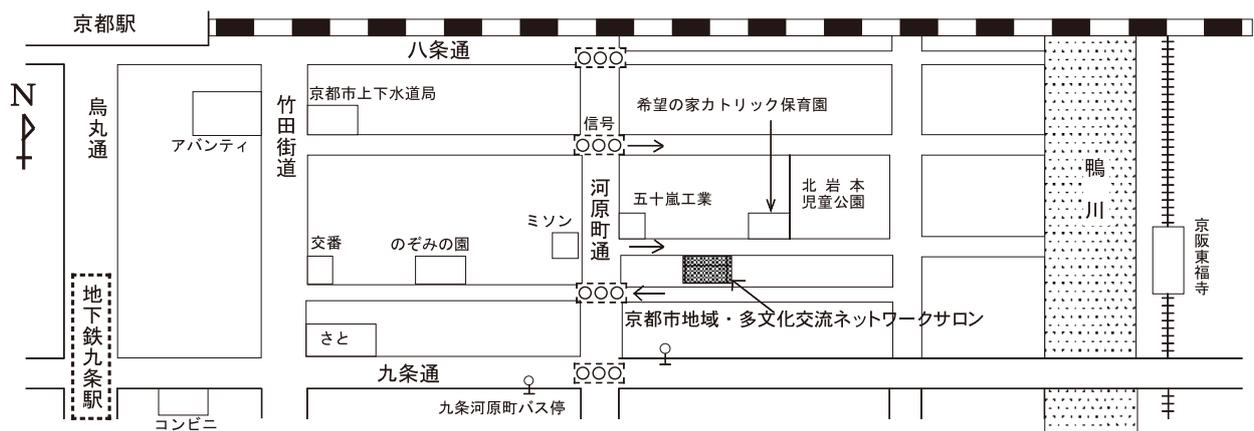
「京都市地域・多文化交流ネットワークサロン」！！

なんと欲張りなネーミングでしょう。この名前が発するイメージを文章にしたら、次のような感じでしょうか。<さまざまな文化をもつ人々やそれにかかわる活動が、バラバラのままなのはもったいない。そこで、互いがつながる網の結び目を東九条という地域が提供します。それをキッカケに、東九条ももっと元気になっていきます。でもサロンなので、まあ、あせらずのんびりやりますわ……>。

しかし「のんびり」かと思いきや、活動はなかなかスピーディです。開所後一年足らずで、登録団体は30を超え、「東九条春まつり」という大きなイベントまで成功させてしまいました。このまつりをのぞいてみると、ステージ演目や出店には多彩な団体・活動や地域の人たちがでています。「多文化にもほどがある！」と一瞬思ったのですが、まんざらそうでもないかもしれません。

民族や国籍以外の違いもそれぞれ「文化」だと見立て、違うもの同士が触れ合ったら何かが生まれるのではないか。関心のある事柄の違い、日々の仕事による違い、車いすを常用している人といない人の違い、暮らしている地域による違い……。そんな違いをみんなが持ち寄り交流する。どうやらここは、そういう拡張型の多文化が育まれる場のようです。

さらにそこから、みんなが担える<東九条文化>が誕生する可能性も感じます。もしかしたら私たちは、新しい歴史のはじまりに立ち会っているのかもしれない。



- 所在地 〒601-8006 京都市南区東九条東岩本町31 (京都市地域・多文化交流ネットワークセンター内)
- TEL 075-671-0108 □FAX 075-691-7471 □E-Mail salon_kyoto@ck9.so-net.ne.jp
- 開館時間 9時～17時 □WEBサイト http://www016.upp.so-net.ne.jp/k_salon/
- アクセス 京都駅・京阪東福寺駅・地下鉄九条駅 徒歩10分 市バス42・202・207・208 九条河原町